

令和5年岩手県モデル事業所伴走支援

施設概要 介護老人保健施設やまゆり

施種種別	介護老人保健施設
定員	80名（通所20名）
開設日	2004年4月
所在地	岩手県一関市

手順01 改善活動の準備をしよう

- 生産性向上の取組を推進するにあたって、プロジェクトチームをつくる。
- 現場担当者に任せるだけでなく、経営層も関与。
- 経営層から、取組開始のキックオフ宣言をし、取組の意義等を周知。

手順02 現場の課題を見える化しよう

- 62%の職員が情報共有の基準がバラバラと回答。
- 92%の職員がテクノロジーの運用がうまくいかないと回答。
- 77%の職員が記録量が多いと回答、また69%の職員が転記が多いと回答。
- 69%の職員が常に業務に追われていると回答。

申し送りノートとワイズマンの二重記載を可視化し、介護ソフト（ワイズマン）の効率的活用につなげる土台を作る。

手順03 実行計画を立てよう

活用したテクノロジー

ワイズマン

申し送りノートとワイズマンの二重記載を可視化し、介護ソフト（ワイズマン）の効率的活用につなげる土台を作る

1

二重記載している
情報が見える化

- 現在のノートとワイズマンに二重記載している情報をリーダーが見える化。

2

申し送りに関する
アンケート

- 実際の業務後にアンケートの実施。

3

その他

手順04

改善活動に取り組もう

活用したテクノロジー

ワイズマン

～工夫した点～

申し送りノートとワイズマンの二重記載を可視化し、介護ソフト（ワイズマン）の効率的活用につなげる土台を作る

1

二重記載している
情報が見える化

- 一気に全てを見える化するのではなく、まずは情報を網羅して、その次に共通手段を網羅して・・・とステップを刻んで進めていった。
- 他の職員と連携して情報を取得しなければいけないと考察した。

2

申し送りに関する
アンケート

- 対話で一人ひとりにアンケート回答をお願いした。

3

その他

- 今後ワイズマンをどのように活用していくといいか仮説を立てた。

手順05

改善活動を振り返ろう

実際の業務後にアンケートを実施

- ・業務に時間的・気持ち的余裕を持てたかに関しては、曜日によって波があるが、ほとんどの曜日で60%以下であった。
- ・申し送りを利用者への時間とアセスメントに活かしたかに関しては、曜日によって波があるが、50%を下回る曜日が半分あった。

改善活動はとても大きなことを行うのかと思っていたが、実際は自分達が取り組める範囲からはじめられ、そのチャレンジの積み重ねが大きな改善につながる事がわかった。

職員の想いが知れたこと、活動を忙しい中でも進めていけたことがよかった。

時間的気持ち的余裕
がもてるようになった

手順06

実行計画を練り直そう

- 今まではこのように職員の声を客観的に捉えることができていなかった。
- 現状把握アンケート、あるあるアンケートを実施し、職員の声から課題が見える化できてよかった。
- 今回改善策の仮設を立てたことで、今後改善活動の一步を踏み出すイメージを持つことができた。
- ワイズマンと申し送りノートの二重記載について、見える化・整理したが、現状運用におけるいい点や課題点が明確になった。

- 
- 職員が働きやすい環境をつくっていくためには、今後もこの改善活動の経験を活かして、課題を一つ一つ解決し、利用者へのケアにもつなげていきたい。
 - アナログで整理し、必要なところに必要なICTやロボットを活用してより専門的なところに専門職としての力を発揮できる環境を作っていきたい。